

\* 堺教会 CS 新聞「いずみのひろば」は、ぜひ家族の人と一緒に読んで下さい。



# いずみのひろば

2019年6月号  
日本基督教団堺教会  
No. 487 教会学校

## 「<sup>かみ</sup>神さまからの<sup>やくそく</sup>約束」

<sup>せうせい</sup>創世記 9:12~17



「わたしは<sup>ひと</sup>人を作ったことを<sup>こうかい</sup>後悔する。洪水をおこして、ほろぼしてしまおう。」

人が悪いことばかりして、<sup>かみ</sup>神さまのことを忘れてしまうので、ある日、<sup>かみ</sup>神さまは<sup>けつい</sup>決意されました。

けれども、ノアさんだけは<sup>たす</sup>助けよう！なぜって、ノアさんは<sup>かみ</sup>神さまのことを忘れてなかったからです。

「<sup>おお</sup>大きな<sup>ふね</sup>船を作りなさい。船ができたなら、<sup>かぞく</sup>家族といっしょに<sup>ふね</sup>船にはいりなさい。

<sup>かぞく</sup>家族だけでなく、<sup>どうぶつ</sup>動物たちを、2匹ずついっしょに<sup>つ</sup>連れていきなさい。」

さあ、ノアさん<sup>たいへん</sup>大変です！でも、いっしょうけんめい、<sup>かぞく</sup>家族で<sup>ちから</sup>力をあわせて、<sup>ふね</sup>船を作りました。

<sup>ふね</sup>船ができると、なんと、いろんな<sup>どうぶつ</sup>動物が2匹ずつ、ノアさんのところへやってきました。

ライオンやキリンや、ウサギやサルも！

みんなで<sup>ふね</sup>船にはいって、<sup>ふね</sup>船の<sup>と</sup>戸をしめると、そのあと、<sup>こうずい</sup>洪水がおこりました。

<sup>あめ</sup>雨がずっとふりつづきました。そして、<sup>ふね</sup>船にはいらなかった<sup>ひと</sup>人たちは、みんな<sup>し</sup>死んでしまったのです。

ノアさんは何日も<sup>ふね</sup>船の中にいました。そして、やっと<sup>ちじょう</sup>地上にでると、また、<sup>かみ</sup>神さまが<sup>い</sup>言われたのです。

「もう2度と、こんなふう<sup>ひと</sup>に人をほろぼしたりしない。これはわたしからの<sup>やくそく</sup>約束だ。」

<sup>かみ</sup>神さまは、<sup>こうずい</sup>洪水で人が<sup>し</sup>死んでいくのを見て、<sup>かな</sup>悲しかったのかもしれないね。

でも、人が悪いことをしなくなるのではありません。それなのに、<sup>だいじょうぶ</sup>大丈夫なのかな？

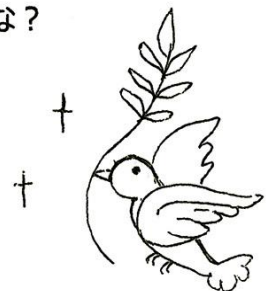
ほんとうにもう怒られないのかな？みんなはずっといい子でいられる？

ちょっとふしぎな、<sup>しん</sup>信じられないような<sup>やくそく</sup>約束ですね。

でも、<sup>かみ</sup>神さまのこの<sup>やくそく</sup>約束は<sup>じつげん</sup>実現しました。

イエスさまが、<sup>じゅうじか</sup>十字架にかかって、わたしたちのかわりに<sup>し</sup>死んでくださったからです。

だから、わたしたちは<sup>まいにち</sup>毎日、<sup>こえ</sup>おおきな声で言うんです。「イエスさまありがとう！」って。



(おはなし <sup>こばやしもとこせんせい</sup>小林素子先生)